

今年 10 月に「令和 2 年国勢調査」が実施され、今回で 1920（大正 9）年の調査開始以来 100 年の節目を迎えます。

国勢調査は国内に住む全ての人を対象とした最も大規模かつ重要な調査で、国内の人口や世帯の実態を把握するため 5 年ごとに行われる統計調査です。

では、これまでの調査結果から山口県の人口と世帯数の推移を見てみましょう。まず人口は、85（昭和 60）年の 160 万 1627 人を二度目のピークに減少を続け、2015（平成 27）年には 140 万 4729 人になっています。これに対して世帯数はこの間、51 万 8938 世帯から 59 万 8834 世帯へ少しずつ増加するという逆転現象が生じています。

人口は約 20 万人減少したのに世帯数が増加したのはどうしてでしょうか。

そこで、この間の世帯の家族類型の世帯数をグラフに表してみると、核家族がほぼ横ばいなのに対し、単独世帯は大きく増加していることが分かります。単独世帯数は、85 年の 10 万 33 世帯から 2015 年には 19 万 9089 世帯とほぼ倍増しており、一般世帯に占める単独世帯の割合が 19.3% から 33.3% に増加しています。この単独世帯の増加により、人口は減少しながら世帯数が増加したものと考えられます。

果たして、今回の調査ではどのような結果となるのでしょうか。

「令和 2 年国勢調査」では、紙の調査票以外にインターネットでも回答することができます。スマホやパソコンで 24 時間いつでも回答でき、また厳重なセキュリティにより保護されていますので、便利で安心です。ぜひインターネットでの回答をよろしくお願いします。

